

# 腫瘍切除術説明書

1. 病名  良性腫瘍(粘液嚢胞を含む)  白板症  扁平苔癬

2. 手術名 腫瘍切除術

3. 必要性について

- 放置すると腫瘍が大きくなったり、悪性化する可能性があるため  
 腫瘍の治療と病理組織検査による最終診断のため

4. 方法

- 局所麻酔下に行います。  
 腫瘍と周囲の健常組織を含めて切除します。  
 切除した創部を縫合します。  
 切除により組織が不足している際には、人工真皮や抗菌薬軟膏含有ガーゼを創部に縫いつけます。

5. 合併症と術後の障害

- 痛み: 術後2～5日出現するため、消炎鎮痛剤を投与しコントロールします。  
 腫れ: 術後2日目にピークを迎え、約5～7日程度で消退します。また、腫れに伴い口が開きにくくなる場合があります。  
 出血: 術後約1週間は唾液に血が混じります。特に抗凝固剤や抗血小板薬を服用されている方は出血が多いことがありますが、自己判断で服用を中止しないでください。うがいをしすぎると出血を助長することになります。  
 内出血: 頬や顎下に内出血が出現することがあります。紫色から黄色に変化して約2週間で消退します。  
 感染: 最近感染により痛みや腫れが増強することがあります。その際は抗菌薬の投与や追加処置が必要となります。  
 発熱: まれに発熱することがあります。消炎鎮痛剤の服用で解熱しますが、なるべく安静を保って下さい。  
 数年後に同部位へ腫瘍が再発する可能性があります。  
 人工真皮や抗菌薬軟膏含有ガーゼを創部に縫いつけた際には、約1～2週間で除去します。  
 末梢神経障害: 切除した創部の知覚異常(しびれやひきつれ感)が出現することがあります。ビタミンB12製剤の内服によりほとんどの場合回復しますが、極まれに後遺することがあります。  
 病理組織検査の結果によっては、追加の処置や検査が必要になることがあります。

後藤歯科医院 院長殿

上記の説明を受け、その内容を理解したうえで手術を受けることに同意します。

平成 年 月 日

患者署名

代理人署名

(続柄

)